

## 2月4日(金) Zoom 意見交換会 「米中の中で日本はどう対処すべきか」

DF 会員 和田 文男

小生には、社会人1年生から高校2年生の間の5人の孫がおります。

皆、毎日有意義な前向きの日を送っている様子ですが、彼等が今後日本の中堅となって行く中で、日本を取り巻く環境は今迄とは異なり地球上の世界各国との関係に大きな変化が生じる心配が予見されます。

太平洋戦争後、日本は一転して、世界最大最強の米国の庇護の下に（同盟国の名の下に）経済的にも安全保障の面からもサポートを受け、世界第2位の経済大国（中国が抜く迄）に成長したが、中国が着々と経済面も軍事面も拡大を続けており、2030年頃には経済規模は米国を抜き、順当に行けば2050年頃には中国のGDPは米国の1.7倍になるとの見方もあり、巨大な中国が戻って来そうであります。

一方、日本は歴史的にも地理的にも文化的にも、中国と近く、経済のつながりも今や米国以上と言っても良い深い関係にある中で、米中の分離（デカップリング）と対決が深まれば、日本はどうすれば良いのかとの素朴な問いが持たれます。

直近の現象として、

- 米国社会の格差や政治の弱体化による総合力の劣化により、世界の警察官としての立場や力を失いつつあり、アフガニスタンからの撤退や内向きの施策が続く。
- 米国一国では、中国の抑えが出来なくなってきた中で、日米豪印4カ国（クアッド）による「対中対策」の話し合いの場を設けた。
- 北朝鮮によるミサイル発射実験が続けられ、核弾頭を有するミサイルの日本向リスクが高まってきている。米国も中国も抑止に動かない。
- 中国が台湾を歴史的に自国に属するとして、軍事力行使による奪回の準備に入っている様子。

これに対し、かつて一旦「中国は一つ」として台湾を切った政策を反故にして、台湾に武器を送り 武力行使に備え、太平洋艦隊の派遣を示唆している。

但し、米国の海上からの支援で台湾・米国が勝てるとは思われていない。

又、米国の軍事活動は日本の米軍基地から行われ、日本は台湾有事に自動的に巻き込まれてしまう。

等々のリスクが高まりつつある中で、近い将来日本の中堅層になる孫達に、小生の私見を述べ、その様な環境で生きて行く心構えを述べたものであります。

以上